

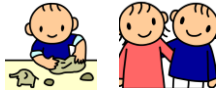









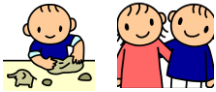









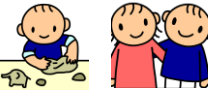







5月トリアだよ!



5月の活動

月	火	水	木	金	土
		1 感触・ルール  スモック	2 運動 認知課題 	3 休み (憲法記念日)	4 休み (みどりの日)
6 休み (振替休日)	7 感触・ルール  スモック	8 運動 認知課題 	9 音楽・絵画  スモック	10 屋外・手指  帽子	11 休み
13 感触・ルール  スモック	14 運動  【早降園日】	15 音楽・絵画  スモック	16 屋外・手指  帽子	17 感触・ルール  スモック	18 音楽 
20 運動 認知課題 	21 音楽・絵画  スモック	22 屋外・手指  帽子	23 感触・ルール  スモック	24 運動  【早降園日】	25 絵画  スモック
27 音楽・誕生会  スモック	28 運動 認知課題  【避難訓練】	29 感触・ルール  スモック	30 運動 認知課題 	31 音楽・絵画  スモック	

※専門職の来所日は下記になります。

言語聴覚士(永山)：1日(水)、2日(木)、13日(月)、16日(木)、17日(金)、24日(金)、25日(土)、30日(木)

理学療法士(樋口)：10日(金)、21日(火)、29日(水)、31日(金)

作業療法士(大平)：9日(木)、15日(水)、20日(月)、28日(火)

公認心理師(安藤)：2日(木)、7日(火)～9日(木)、11日(土)、13日(月)～17日(金)、20日(月)～23日(木)、
27日(月)～29日(水)、31日(金)



・持ち物全てに記名をし、持たせて下さい。また、記名がない場合は事業所にて記名をさせていただきます。ご理解のほど
 よろしくお願ひ致します。

※当日のキャンセル連絡は、9時15分までに連絡をお願い致します。9時15分以降の連絡になりますと昼食代(264円)が
 発生します。

・活動時間確保の為、9時50分～10時15分までに登園下さい。10時15分までに登園されない際は、ご連絡させていただきます。

・降園時の引き継ぎを13時30分頃より開始しています。13時45分までに来所されない場合は、一度ご連絡させていただきます。

・下着(パンツ)の貸し出しがあった際は、未使用の物を返却して頂きますよう、よろしくお願ひ致します。

・お子様のことで悩み事や困り事等ありましたらご相談下さい。コドモンを必要に応じてご活用下さい。

・トイレトレーニングを行っている方は、トレーニングセット(パンツ、スポン、Tシャツ、肌着、ビニール袋)を袋にまとめて準備して
 いただきますよう、お願ひ致します。

・着替えた衣類を入れる袋を、必ず持たせて下さい。(スーパーのビニール袋等で構いません。)



～体育と運動～

緑がきれいで、さわやかな季節となりました。身体を動かすのにもよい季節です。さてみなさんは、子どものころ「体育」は好きでしたか？私は授業の内容によって“好き・嫌い”がはっきりとわかれていたように思いますが、多くの時間は楽しかった思い出として残っています。

2021年8月に、小学生とその保護者1200組を対象に行ったアンケートによると、好きな教科ランキングで体育は算数(20.0%)に次ぐ第2位(17.8%)であった一方、嫌いな教科でも第3位(7.7%)にランクインしています(ちなみに算数は嫌いな教科でも第1位です)。2013年以降この順位に変化はありませんが、1989年に実施された同様の調査では、好きな教科で「体育」は第1位、嫌いな教科では第8位でした。この25年間で授業内容は先生方や研究者の努力などによって、改善されてきたと思われませんが、嫌いな教科8位から3位へと苦手意識は増してしまっているようです。また、学年が上がるごとに体育嫌いの子どもの数が増えているとされています。

体育嫌いな子どもの割合が増えている背景に、身体を動かして遊べる機会・環境の減少に加えて、より自分と他者を比較する傾向が強まっているということがあげられます。走るときも、ボールを投げるときも、跳るときも常に他者の視線にさらされていると感じることが、他教科と比べて「体育がきらい」という印象を残す一つの大きな原因であると考えられています。ただ知っておきたいのが「運動」と「体育」とは同じではないということです。私たちは同じものとしてとらえがちですが、実は心臓の鼓動、目の瞬き、朝起き上がる、目的の地まで移動するなど、私たちの何気ない生活そのものが「運動」になります。つまり運動を、好きとか嫌いとかではなく、自然のものとして考えると苦手意識がやわらぐのではないのでしょうか。

運動には“きつい”、“苦しい”などのマイナスなイメージも先行しがちですが、私たちが無意識に呼吸するように、運動は私たちが生まれた時からつねに共にしているものと言えます。本来の「体育」は文字どおり“からだの教育”ということであり、自分の身体を知ること、健康を維持し、生活の質を高めることが目的ですので、「体育の授業が好きにならなくてもいい」という見方も大切なかもしれません。

落穂会でも、それぞれの子どもにあった身体の動かし方を考え、こどもが身体を動かす楽しさに触れることができるよう支援していきたいと思ひます。



理学療法士
 樋口 聖士

